

保護者 様

浜松市立西小学校長 渡辺 浩司

全国学力・学習状況調査の分析と報告について

清秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は学校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受け、本校6年生の学習状況の分析や対策の検討結果について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1 学習状況について 【資料1 参照】

今年度の西小の6年生は、国語・算数・理科の平均正答率が、ともに全国平均及び静岡県平均、浜松市平均を大きく上回りました。これは、5年生までの授業での積み重ねはもちろん、家庭学習にも継続的に取り組んできた結果と言えます。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

2 児童質問紙（意識調査）について 【資料2 参照】

児童質問紙では、「基本的生活習慣に関わる状況」や「学習に関わる状況」などが調査されました。結果は、全国平均を上回った回答がほとんどで、生活習慣、学校生活、学習状況などの質問において全国平均を上回る状況にあります。

質問調査の結果から、西小の児童は、安心して生活していることが伺えます。また、学習にも前向きに取り組んでいることが分かります。今後も一人一人のよさを認め、励ましながら、家庭・地域・学校と連携を図って教育活動を進めていきたいと思います。

調査問題は、以下のURLから閲覧できます。

令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

6年生については、お子さんを通して全国学力・学習状況調査の個別の「調査結果」をお渡ししました。今後、家庭学習の進め方を考える際にお役立てください。

【資料1】 学習状況について

調査結果（正答率）

	西小	浜松市	静岡県	全国
国語	81%	67%	66%	66.8%
算数	69%	58%	57%	58.0%
理科	66%	56%	55%	57.1%

(○…成果 ▲…課題)

國語

- 多くの問題で正答率が全国や静岡県、浜松市を上回っている。
- 知識及び技能のうち、「情報の扱い方に関する事項」での正答率が全国平均を大きく上回った。
- 「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の全領域で安定した力が身に付いている。
- ▲ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

(大問3三(1):話し合いの様子に当てはまる内容として適切なものを選択する)

正答率 54.5%

〈授業改善のポイント〉

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切である。

三 木村さんは、言葉の変化について甲さんと呼ぶ合いながら「資料1」を読み進めています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あと(1)と(2)の問いに答えましょう。

話し合いの様子

ほくが読んだ二つの資料(「資料2」、「資料3」)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。「資料1」に「言葉の正誤を確かめよう」と決めることはできない」と書かれていることになっているよ。

資料4

私は、この資料(「資料4」)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のこえ方になちがうことがあることが分かったよ。

本 当 だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」とかえていて人の割合が高いね。

こんなふうにな、人によって言葉の意味のこえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから「資料1」に「おたどらだ」というように「資料1」と



言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。もう一度「資料1」を読み返して、言葉の変化について自分が一番なつとくしたことをとめよう。

「資料1」

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて「原始的」であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなつていたり、使ひ方が変わったたりする場合は少なくありません。このことから、意味や使ひ方が変わつてくる言葉について、この使ひ方が正しいといふ決めるのは短絡的ともいえるでしょう。(1)この本を読むとおおききがありますが、文化庁国語政策では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに「この本来の意味」「本来とは違う使ひ方」というた言ひ方にとめていきます。言葉の正誤を疑はれぬことではできないと考えからずです。

では、え、どんな言葉を使つてもいい、というわけではありません。(3)コミニケーションの食ひ違ひを教示してあげなければなりません。

言葉は多岐にわたる」とも言われます。その底が厚みや深さにより、触れていただきたいと考えています。

話し合いの様子①

①「資料1」の ― 部①

②「資料1」の ― 部②

③「資料1」の ― 部③

④「資料1」の ― 部④

正 答 3

【正答率】	西小	浜松市	静岡県	全国
大問 1 三 (1)	7 8 . 2 %	6 8 . 6 %	7 1 . 4 %	7 1 . 8 %
大問 2 四 ア	8 9 . 1 %	7 7 . 7 %	7 7 . 9 %	8 1 . 6 %
大問 2 四 イ	9 6 . 4 %	7 0 . 6 %	7 0 . 2 %	7 2 . 1 %

- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。
(大問1三(1): 発言した目的を、話し合いの様子や話し合いの記録をもとにして捉える。「A 話すこと・聞くこと」)
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
(大問2四: 相手の(ア) このみに合わせて…、(イ) あつい日に、…「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」)

算数

- 多くの問題で正答率が全国や静岡県、浜松市を上回っている。
○ 「A数と計算」「B図形」「C測定」「D変化と関係」「Eデータの活用」の全ての領域で安定した力が身に付いている。

〈領域別平均正答率〉

領域	西小	静岡県	全国
A 数と計算	72.3%	60.3%	62.3%
B 図形	65.0%	57.7%	56.2%
C 測定	61.8%	53.9%	54.8%
D 変化と関係	69.1%	56.1%	57.5%
E データの活用	73.5%	60.8%	62.6%

- ▲ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。

(大問3(2))： $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く) **正答率41.8%**

〈浜松市の結果(概要)より〉

小算課題 3(2) 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること。

正答率 浜松 23.3% 全国 23.0% 無解答率 浜松 17.1% 全国 15.7%

問題の概要

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。

ひらとさん

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。もとにする数を同じ数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

正答例

- $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にすると、もとにする数は $\frac{1}{12}$ になります。
- $\frac{3}{4}$ は、 $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は、 $\frac{1}{12}$ の8個分です。

考えられる誤答例

共通する単位分数を用いながら、計算の処理過程を十分に説明できていない誤答例
(例) $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ を通分して計算すると、 $\frac{9}{12} + \frac{8}{12} = \frac{17}{12}$ になります。

誤答例の分析と課題

異分母分数の加法において、通分することはできるものの、単位分数の意味の理解が十分でなく、単位分数を用いて説明することができなかった。これについては、3(4)において、異分母分数の加法が課題されており、この問題の正答率は、81.7%であったことから、異分母分数の加法は正しく計算できている。また、算数科に関する質問調査の中には、「どのように考えたかについて説明する活動をよく行っていますか」という設問があり、肯定的に回答している児童の割合が66.7%と低い。これらのことから、形式的な計算は行うことができるが、単位分数の意味の理解やその説明に課題がある。

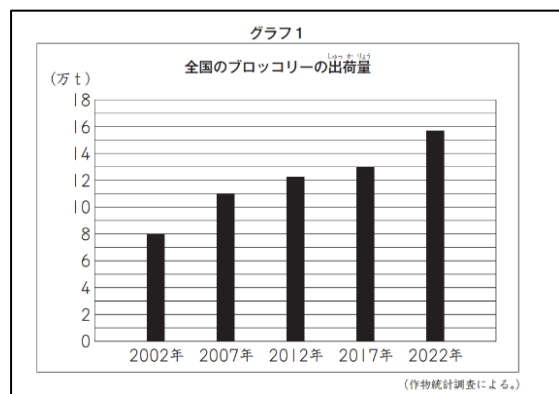
授業改善のポイント

異分母分数の加法の仕方について学習する際に、既習である同分母の加法と比較し、分母をそろえる必要性があることに気づかせる。その上で、数直線や図を用いて単位分数とは何かや分母をそろえることの意味を確認する時間を設定する。また、共通する単位分数は何か、その単位分数の幾つ分かといった視点を提示し、友達と考えを説明し合う機会を設ける。

このように、異分母分数の加法を形式的に計算するだけでなく、分数の意味や仕組みを理解した上で説明する活動を取り入れることが大切である。

→「令和7年度【小学校算数】報告書」

- ▲ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることに課題がある。



(大問1(1))：2022年の出荷量が2002年の出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ) **正答率78.2%** < 全国78.7%
※正答率が唯一、全国平均を下回る。

2022年の全国のプロッコリーの出荷量は、2002年の出荷量の約 倍になっています。

上の空に入る数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 0.5
- 2
- 8
- 16

理科

- 多くの問題で正答率が全国や静岡県、浜松市を上回っている。
- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全ての領域で安定した力が身に付いている。

〈領域別平均正答率〉

区分・領域		西小	静岡県	全国
A 区 分	エネルギー	56.4%	45.7%	46.7%
	粒子	56.7%	49.8%	51.4%
B 区 分	生命	59.5%	48.1%	52.0%
	地球	77.3%	65.5%	66.7%

▲ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。

(大問3(4): レタスの種子の発芽の結果から、問題文中の人物の気づきを基に、見だした問題について書く) **正答率14.5%**

〈浜松市の結果(概要)より〉

小理課題 3(4) レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。

正答率 浜松21.6% 全国29.9% 無解答率 浜松13.6% 全国11.4%

問題の概要

レタスの種子の発芽の結果から、問題文中の人物の気づきを基に、見だした問題について書く。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。

レタスの種子を発芽させようとして、水、空気、温度の条件を右のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、右の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみた。

てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり(種子が空気にふれている)
- ・温度(室温)
- ・日光なし(暗をかくされている)
- ・肥料なし

正答例

(例) レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。

【正答の条件】

- ①〈条件〉から、日光または肥料について、1つ選んで記述している。
- ②レタスの発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述している。

考えられる誤答例

レタスの種子が発芽するためにはどんな条件が必要なのか調べよう。

【誤答の理由】

問題を見いだす場面において、どの条件に着目して調べればよいかが焦点化することができていない。

誤答例の分析と課題

自然の事物・現象との出会いから問題を見いだす場面で、複数の事象を比較することを通して共通点と差異点を整理し、どの条件に着目して調べればよいかが考えることができていない。

授業改善のポイント

子供が出会った自然の事物・現象から生じた疑問を、探究する問題として整理し、一人一人が自ら問題を設定して表現できるよう指導する。その際、子供が複数の事象を比較し、共通点や差異点を整理することができるようにする。

個人が見いだした問題を集約し、学級全体で探究する問題としていく際には、子供一人一人が何に着目したのか、共通する考えを整理する。

→「令和7年度【小学校理科】報告書」

▲ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていることに課題がある。

(大問2(1): アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの特性に当てはまるものを選ぶ) **正答率10.9%**

〈対策について〉

- ・国語科【目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること】については、文章と図表の関連性を意識して読み進められるように、授業の中で、図表から読み取れる情報と文章に書かれた情報を線でつなぐなどして、関連する部分を見付けたり、書き手がなぜその図表を用いたのか、図表から何を伝えたいのかを考えたりする学習を経験していく。
- ・算数科【分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること】については、授業の中で、分数の意味や仕組みを理解した上で説明する活動を取り入れていく。
- ・理科では、授業の中で、実生活とのつながりを意識できる場面を設定したり、問題解決方法や結果考察について言葉を用いて説明できるように指導したりする。

【資料２】児童質問紙（意識調査）について

（「当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に答えた割合　％）

① 学習意識に関する質問調査

＋…全国を上回る　－…全国を下回る

質問項目	西 小	全 国	差
国語の勉強は好きですか。	67.9	58.3	+9.6
算数の勉強は好きですか。	78.5	57.9	+20.6
理科の勉強は好きですか。	71.4	80.1	-8.7

② 「浜松の目指す子供の姿」に関する質問調査

質問項目	西 小	全 国	差
自分には、よいところがあると思いますか。	94.7	86.9	+7.8
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	96.5	92.2	+4.3
将来の夢や目標をもっていますか。	84.0	83.1	+0.9
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100	96.4	+3.6
学校に行くのは楽しいと思いますか。	96.5	86.5	+10.0
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	96.5	93.0	+3.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	75.0	81.3	-6.3

③ 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に関する質問調査

質問項目	西 小	全 国	差
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	82.1	80.3	+1.8
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	92.8	84.9	+7.9
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	87.5	79.4	+8.1

④ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する質問調査

質問項目	西 小	全 国	差
授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	89.3	83.4	+5.9
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	92.9	91.9	+1.0

⑤ ICTを活用した学習状況に関する質問調査

質問項目	西 小	全 国	差
授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	92.8	71.7	+21.1
※週3回以上と回答した子供の割合			

【肯定的に答えた割合で差が大きかった質問】

「学校に行くのは楽しい」＋10.0

- ・家庭での励ましや良好な友人関係により、学校生活を肯定的に感じている子が多いことが分かります。何事にも前向きな気持ちで取り組むことによって、学習の定着や落ち着いた生活につながっていると思われます。

「国語、算数の勉強が好き」国＋9.6 算＋20.6

「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用した」＋21.1

- ・意欲をもって学習に取り組んでいることがよく分かります。また、ICT機器を使うことで、学習内容を拡大表示したり、動画を見せたりと視覚的にも分かりやすいため、児童の理解が深まり、学習への興味関心が高まっていると考えられます。また、ICT機器を使った共同編集などの意見交換を促す協働的な学習によって、児童の主体的な学習につながっていったと思います。今後も児童の興味関心を大切にした授業を心掛けていきます。

【肯定的に答えた割合が全国を下回った質問】

地域や社会をよくするために何かしてみたい－6.3

「理科の勉強が好き」－8.7

- ・児童が地域の歴史や文化、伝統を学び、地域への愛着や誇りを育むことができるよう、地域行事への参加を促していきます。

今後も子供たちのよさを認め、励ましながら、家庭・地域・学校と連携を図って教育活動を進めていきたいと思ひます。また、教師と子供、子供同士など温かい人間関係を築き、安心して楽しい学校生活を送ることができるよう子供たちの声に耳を傾けていきます。ご家庭でもお子さんの様子をよく見ていただき、相談相手になっていただけますよう、よろしくお願いいたします。